

2014年9月期第1四半期決算

2014年1月31日

MRI 株式会社三菱総合研究所

1. 2014年9月期第1四半期決算と業績予想

2. 参考資料

2014年9月期 第1四半期のまとめ

売上高：139億円 前同比+3億円(+2.3%)

- 金融ソリューションの売上増加により増収

営業損失*：△5億円 前同比△2億円

- 先行投資、販管費の増加による減益であり、計画通り
- 取引条件、採算はほぼ前年並み

純損失*：△7億円 前同比△4億円

- 法人税等増加による(グループ内受取配当金増加に伴うもので、1Q特有の影響)

1Q決算・受注は順調に推移。業績予想は変更なし

- 受注好調。通期売上予想の84%を既に受注済み

*営業損失、純損失計上は売上の季節要因によるもので例年の傾向

第1四半期連結決算 <前年同期比>

(百万円)

	2013年9月期 1Q(10~12月)	2014年9月期 1Q(10~12月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	13,653	13,974	+320	+2.3%
売上原価	11,110	11,425	+315	+2.8%
売上総利益	2,543	2,549	+5	+0.2%
売上総利益率	18.6%	18.2%	△0.4P	—
販売費及び一般管理費	2,861	3,076	+215	+7.5%
営業利益(△損失)	△317	△526	△209	—
営業利益率	△2.3%	△3.8%	△1.5P	—

●売上高の顧客業種別内訳・前同比増減理由

(百万円)

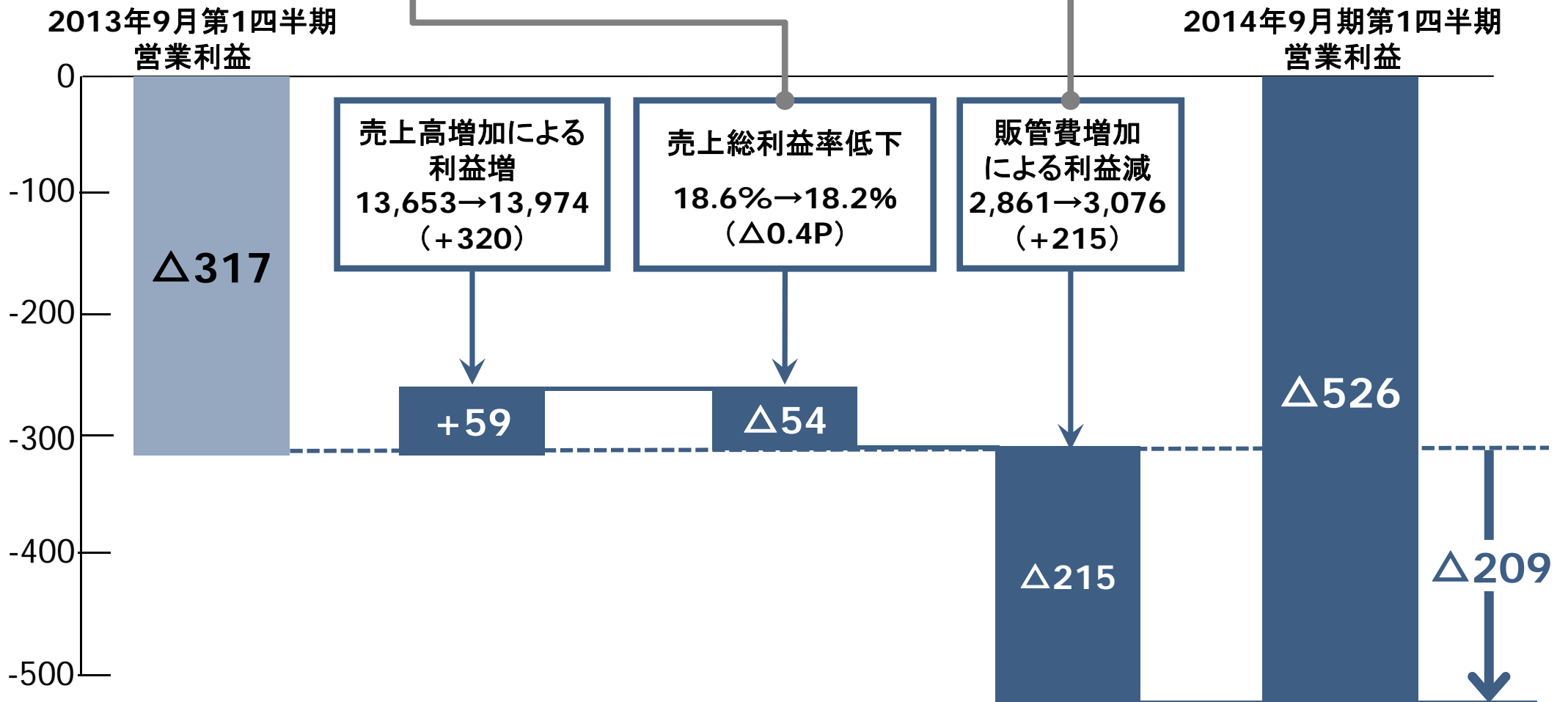
	前1Q	当1Q	増減額	増減率	増減理由
官公庁	295	331	+35	+12.1%	
金融・カード	7,490	8,073	+582	+7.8%	金融機関向けシステム開発、アウトソーシングサービスの売上増加
一般産業	5,867	5,569	△298	△5.1%	前1Q電力・エネルギー、事業継続マネジメント案件等の反動減

営業利益の変動要因 <前年同期比>

- ・ 新事業創出に向けた先行投資
- ・ 取引条件、採算はほぼ前年並み

- ・ グループ情報システム刷新に係るコスト増 +130百万円
- ・ 施策費用増(管理機能強化、情報発信等) +85百万円

(百万円)



第1四半期連結決算 <前年同期比>

(百万円)

	2013年9月期 1Q(10~12月)	2014年9月期 1Q(10~12月)	前年同期比	
			増減額	増減率
営業利益(△損失)	△317	△526	△209	—
営業外損益	44	55	+10	+24.0%
経常利益(△損失)	△272	△471	△198	—
特別損益	8	△6	△15	—
税金等調整前四半期純利益(△損失)	△263	△477	△213	—
法人税等	△19	197	+216	—
少数株主利益	66	73	+6	+9.9%
四半期純利益(△損失)	△310	△747	△437	—
1株当たり四半期純利益(円)	△18.91	△45.53	△26.62	—

●法人税等の前同比増加理由:

グループ内受取配当金増加による影響

(見積実効税率使用による1Q特有の影響であり、通期の税負担率には影響なし)

シンクタンク・コンサルティング事業

(百万円)

	2013年9月期 1Q(10~12月)	2014年9月期 1Q(10~12月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	1,115	851	△263	△23.6%
営業利益(△損失)	△565	△806	△241	—
営業利益率	△50.7%	△94.7%	△44.0P	—
受注高	3,678	4,381	+703	+19.1%
受注残高	17,846	22,197	+4,351	+24.4%

主なポイント

- 10~12月の完了案件減少により減収
- 先行投資(原子力情報データベース、mifチャイナ、研究開発)、販管費増により、減益
- 受注順調。大型の政策執行支援型案件の影響もあり、受注残高は前同比大幅増加

ITソリューション事業

(百万円)

	2013年9月期 1Q(10~12月)	2014年9月期 1Q(10~12月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	12,538	13,122	+584	+4.7%
営業利益	386	293	△92	△24.0%
営業利益率	3.1%	2.2%	△0.9P	—
受注高	15,258	18,039	+2,780	+18.2%
受注残高	43,784	46,613	+2,829	+6.5%

主なポイント

- 金融機関向けシステム開発案件、アウトソーシングサービスの増加により、増収
- 増収効果も、販管費増加により減益
- カード、その他金融機関向け案件受注増加により、受注高、受注残高とも前同比增加

2014年9月期 連結業績予想

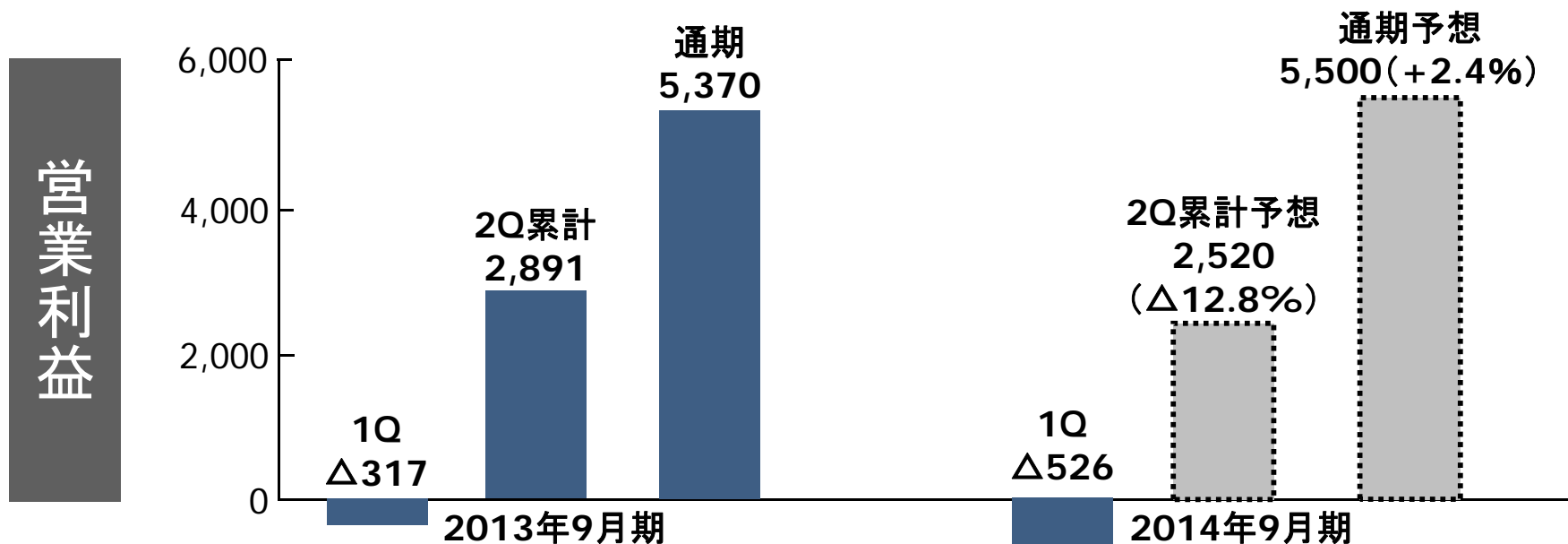
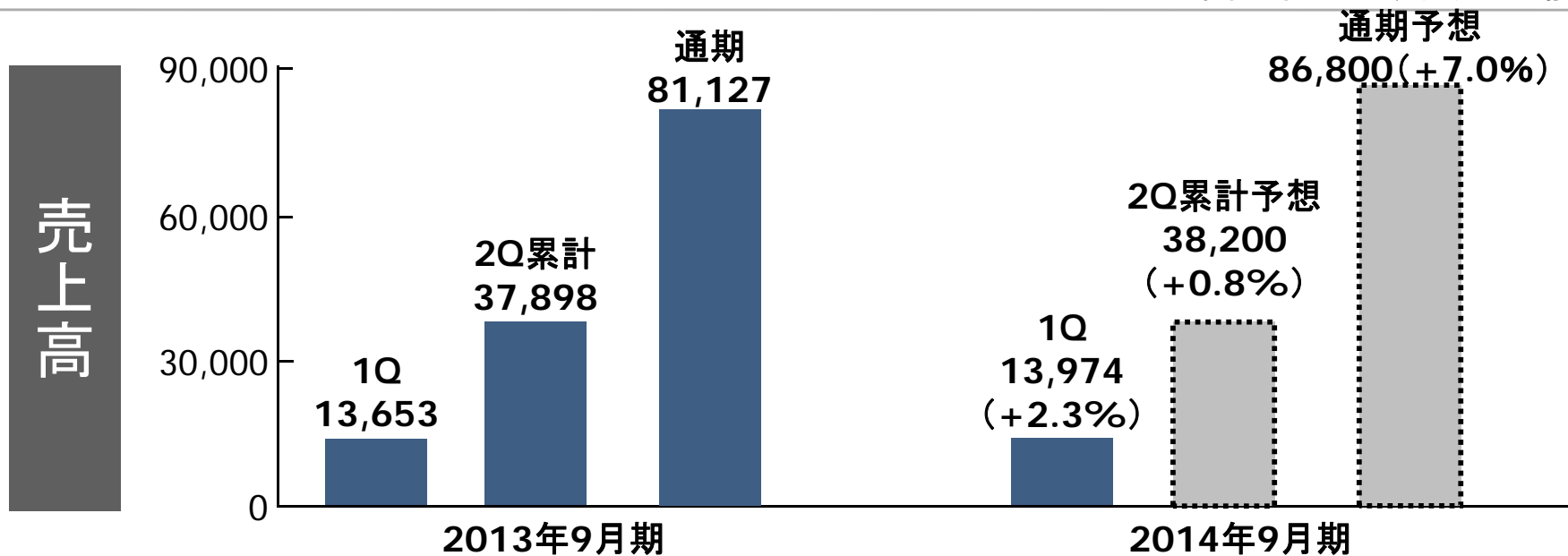
前回(2013/10/31)予想から修正なし

(百万円)

	2013年9月期 実績 ①	2014年9月期 (予想) ②	前期比	
			増減額 ②-①	増減率
売上高	81,127	86,800	+5,672	+7.0%
シンクタンク・コンサルティング事業	21,038	24,700	+3,661	+17.4%
ITソリューション事業	60,088	62,100	+2,011	+3.3%
営業利益	5,370	5,500	+129	+2.4%
営業利益率	6.6%	6.3%	△0.3P	
経常利益	5,566	5,650	+83	+1.5%
当期純利益	2,885	2,940	+54	+1.9%
1株当たり当期純利益(円)	175.67	179.01	+3.34	+1.9%

2014年9月期 連結業績予想

単位:百万円、()内は前年同期比




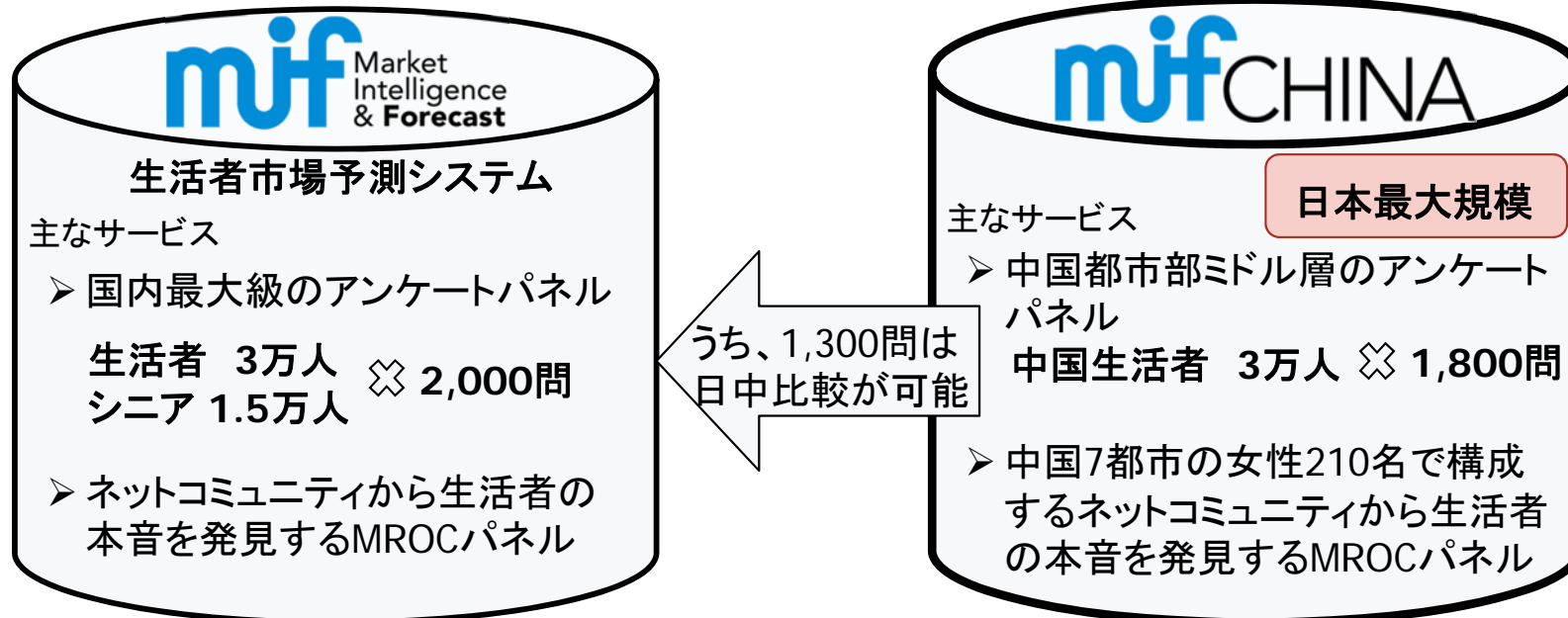
1. 2014年9月期第1四半期決算と業績予想

2. 参考資料

mifチャイナ

- 「生活者市場予測システム(mif)」の新サービス「mifチャイナ」スタート
- 中国ミドル層のライフスタイル、価値観を読み解く
 - 中国ミドル層(年収5千ドル以上)3万人×1,800問のアンケートパネル
 - 中国女性の本音をリアルタイムで収集し分析するMROCパネル

生活者市場予測システム(mif)の提供サービス  <https://mif.mri.co.jp/>



プレスリリース

「オリンピック・レガシー検討会」企画発表会開催

2014. 1. 7

- 2020年東京五輪を契機に、社会的課題の解決を加速、レガシー(遺産)を築いていく活動や事業を提唱・推進
- レガシー創出に向け、情報収集・発信、事業連携等のプラットフォーム立ち上げ

宮城県女川町災害公営住宅建設事業の資金調達を支援

2013.12.25

- MRIと三菱東京UFJ銀行は、電子記録債権を活用した新たな資金供給スキームを提供することで、地元建設業者等が行う災害公営住宅建設事業の円滑な推進に貢献
- 被災地での実務経験に富む地元金融機関とも連携し、被災地の復興・地域再生を支援



放送・通信連携によるスマートテレビ実証実験実施

2013.12.11

- 総務省の実証実験「Hybridcast 2014」を民放各局と合同で実施。視聴者視点に立った使いやすく安全・安心な新サービスの普及促進を目指す



将来の見通しに関する注意事項

この資料は、将来の見通しに関する記述を含んでいます。予想値を含めこれら将来の見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいた当社の判断によるものです。

こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、予測困難なリスクや不確実性を内包するものです。したがって、実際の業績等は、これら種々の要因によって見通しと異なる結果となることがあります。

当社は、将来の事象や新たな情報等を反映して、将来の見通しに関する記述を更新したり改訂したりする義務を負いません。



株式会社三菱総合研究所

経理財務部 IR室

TEL : 03-6705-6001
FAX : 03-5157-2171
E-mail : ir-info@mri.co.jp
URL : <http://www.mri.co.jp/>